

安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名 : セルロックJ
推奨用途 : モルタル混和用
使用上の制限 : 推奨用途以外の用途へ使用する場合は専門家の判断を仰ぐこと
会社名 : ダイセルミライズ株式会社
担当部門 : 営業本部コンシューマー営業部産業資材グループ
本社住所 : 〒108-8231 東京都港区港南 2-18-1 JR 品川イーストビル
電話 : 03-6711-8513
FAX : 03-6711-8516
大阪支店 : 〒530-0011 大阪府大阪市北区大深町3-1 グランフロント大阪 タワーB
電話 : 06-7639-7471
FAX : 06-7639-7477
緊急時の連絡先 : 同上

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

健康に対する有害性 : 特定標的臓器毒性 (単回ばく露) 区分 2
記載がない危険有害性は「区分に該当しない」か「分類できない」である。

ラベル要素

絵表示又はシンボル :



注意喚起語 : 警告
危険有害性情報 (安全対策) : 臓器の障害のおそれ (H371)
ミスト、蒸気を吸入しないこと (P260)
取り扱い後は手をよく洗うこと (P264)
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと (P270)
(応急措置) : ばく露またはばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること (P308+P311)
(保管) : 施錠して保管すること (P405)
(廃棄) : 内容物を都道府県及び市町村の規則に従って廃棄すること (P501)
(注意事項) : 接着作業中、乾燥中、養生中とも換気をよくして下さい。
: 取り扱い中はできるだけ皮膚に触れないようにして下さい。
: 容器からこぼれた場合には布等で拭き取り、密閉容器に回収して下さい。
: 取り扱い後は、うがいを行ない、石鹸水等で手洗いを十分に行なってください。
: 粘着、接着、バインダー用途以外には使用しないで下さい。

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別 : 混合物
一般名 : 水性エマルジョン

| 化学名 | 化学式 | 含有量(%) | 官報公示整理番号 (化審法 No.) | CAS No. |
|----------------|---------------------------|---------|-----------------------|----------|
| エチレン・酢酸ビニル共重合体 | $(C_2H_4O_2)_n(C_2H_4)_m$ | 34~38 | 6-6 | 非公開 |
| エチレングリコール | $C_2H_6O_2$ | 1.0~3.0 | 2-230 | 107-21-1 |
| 水 | H_2O | 60~64 | | |

4. 応急措置

吸入した場合 : 蒸気、ガスなどを吸入して、気分が悪くなった場合は、直ちに空気の新鮮な場所に移動させて、安静、保温に努め、速やかに医師の手当を受ける。
皮膚に付着した場合 : 付着した衣服、靴をぬぎ、付着した部分を水または微温湯を流しながら洗浄する。
目に入った場合 : 清浄な水で最低 15 分間目を洗浄した後、直ちに眼科医の手当を受ける。
飲み込んだ場合 : 水でよく口の中を洗い、直ちに医師の手当を受ける。

9. 物理的及び化学的性質

| | |
|-----------------------|--|
| 物理状態 | : 液体 |
| 色 | : 乳白色 |
| 臭い | : わずかな特有臭 |
| 融点・凝固点 | : 約 0°C |
| 沸点又は初留点及び沸点範囲 | : 約 100°C |
| 可燃性 | : なし。 |
| 爆発下限界及び上限界/可燃限界 | : データなし。 |
| 引火点 | : なし。 |
| 自然発火点 | : なし。 |
| 分解温度 | : データなし。 |
| pH | : 5.0~6.5 (水で 50%希釈) |
| 動粘性率 | : 900mm ² /s(動粘度: 1,000mPa・s) |
| 溶解度 | : 水で無限大に希釈可能 |
| n-オクタノール/水分配係数(log 値) | : データなし。 |
| 蒸気圧 | : データなし。 |
| 密度及び/又は相対密度 | : 約 1.1g/cm ³ (23°C) |
| 相対ガス密度 | : データなし。 |

10. 安定性及び反応性

| | |
|----------------|------------------------|
| 安定性 | : 一般的な貯蔵・取扱いにおいて安定である。 |
| 特定条件下で生じる危険な反応 | : 知見なし。 |
| 避けるべき条件 | : 凍結させないこと。 |
| 危険有害な分解生成物 | : 知見なし。 |

11. 有害性情報

(混合物の有害性情報)

| | |
|-----------------|------------|
| 急性毒性 | : 経口 データなし |
| | : 経皮 データなし |
| | : 吸入 データなし |
| 皮膚腐食性・刺激性 | : データなし |
| 眼に対する重篤な損傷・刺激性 | : データなし |
| 呼吸器感受性 | : データなし |
| 皮膚感受性 | : データなし |
| 生殖細胞変異原性 | : データなし |
| 発がん性 | : データなし |
| 生殖毒性 | : データなし |
| 特定標的臓器毒性(単回ばく露) | : データなし |
| 特定標的臓器毒性(反復ばく露) | : データなし |
| 誤えん有害性 | : データなし |

(エチレングリコール)

| | | |
|------------|---|---|
| 急性毒性 | : 経口 | ラットの LD50 値として、4,000-13,400 mg/kg の範囲内で報告がある。 (6,140 mg/kg (PATY (6th, 2012)), 8,540 mg/kg (DFGOT vol. 4 (1992)、PATY (6th, 2012)), 10,800 mg/kg (DFGOT vol. 4 (1992)、PATY (6th, 2012)), 11,300 mg/kg (PATY (6th, 2012)), 13,000 mg/kg、5,890-13,400 mg/kg (SIDS (2009)) |
| | : 経皮 | ラットの LD50 値として、2,800 mg/kg (ACGIH (7th, 2001))、ウサギの LD50 値として、9,530 mg/kg (ACGIH (7th, 2001)、PATY (6th, 2012))、10,600 mg/kg (CICAD 45 (2002)、CEPA (2000)、NITE 初期リスク評価書 (2007))、10,612 mg/kg (環境省リスク評価第3巻 (2004)) |
| | : 吸入 | ラットの LC50 値 (1時間) として、10.9 mg/L (4時間換算値: 2.7 mg/L) (PATY (6th, 2012)) |
| 皮膚腐食性・刺激性 | : ヒト 103 人に対するパッチテストにおいて、本物質の原液 0.2 mL の適用により刺激 | |
| 手の保護具 | : 保護手袋 (ビニール製・ゴム製) | |
| 目の保護具 | : 保護眼鏡 | |
| 皮膚及び身体の保護具 | : 長袖、長ズボンの作業服、保護帽、保護靴 | |
| 衛生対策 | : 保護具は保管場所を定めて保管し、清潔なものを使用する。 | |
| | : 取扱い場所の近くに手洗い、洗眼、うがい等の設備を設け、その位置を明示する。 | |

| | |
|-----------------|--|
| | 性がみられた (SIDS (2009)) |
| 眼に対する重篤な損傷・刺激性 | : ウサギに原液を適用した眼刺激性試験において、刺激性なしとの報告がある (SIDS (2009))。また、液体や蒸気への1回あるいは短時間の眼へのばく露は、恒久的な角膜損傷を伴わない軽微な結膜刺激をウサギに引き起こす (CICAD 45 (2002)、初期リスク評価書 (2007)、CEPA (2000)) |
| 呼吸器感作性 | : データなし |
| 皮膚感作性 | : ヒトに対する報告が2件あり、本物質5%又は25%水溶液を11人に適用したところ、1人(レンズの切断作業で25%水溶液を扱い腕、胸、腹部に皮膚炎を発症した31歳女性、ニッケルアレルギーあり)に激しいアレルギー反応を示したが、他の10名にアレルギー反応はみられなかった (DFGOT vol. 4 (1992)) |
| 生殖細胞変異原性 | : in vivo では、ラットの優性致死試験、マウスの小核試験及び染色体異常試験でいずれも陰性 (NITE 初期リスク評価書 (2007)、環境省リスク評価第3巻 (2004)、SIDS (2009)、ACGIH (7th, 2001)、ATSDR (2010)、CEPA (2000)) 細菌の復帰突然変異試験、哺乳類培養細胞のマウスリンフォーマ試験、染色体異常試験、姉妹染色分体交換試験でいずれも陰性 (NITE 初期リスク評価書 (2007)、環境省リスク評価第3巻 (2004)、SIDS (2009)、ACGIH (7th, 2001)、ATSDR (2010)、CEPA (2000)) |
| 発がん性 | : ACGIH (2001) で A4 に分類 |
| 生殖毒性 | : ラットを用いた経口経路 (混餌) での三世代生殖毒性試験においては生殖発生毒性に対する影響は認められなかったとの報告 (ATSDR (2010)、(NITE 初期リスク評価書 (2007)、環境省リスク評価第3巻 (2004)、CICAD 45 (2002)) |
| 特定標的臓器毒性(単回ばく露) | : ヒトにおいては、経口摂取後の毒性影響は主として以下の3段階に分けられる。すなわち、第一段階 (摂取から0.5-12時間) : 中枢神経系への影響 (中毒、嗜眠、痙攣、昏睡) 及び代謝障害 (アシドーシス、高カリウム血症、低カルシウム血症)、第二段階 (摂取から12-24時間) : 心臓及び肺への影響 (頻脈、高血圧、代償性過呼吸を伴う重度の代謝性アシドーシス、低酸素症鬱血性心不全、成人呼吸窮迫症候群)、第三段階 (摂取から24-72時間) : 腎毒性 (シュウ酸カルシウム沈着、血尿、急性尿細管壊死、腎不全) である (SIDS (2009)、CEPA (2000)、環境省リスク評価第3巻 (2004))。さらに、摂取から6-14日、あるいはそれ以降において見られる影響として第四段階を置き、中枢神経系影響に加え、神経学的影響(顔面神経麻痺、不明瞭な発語、運動能力の喪失、視力障害を含む)が観察され、脳神経の損傷を示唆するとの報告もある (NITE 初期リスク評価書 (2007)、ACGIH (7th, 2001)、DFGOT vol. 4 (1992))。なお、ヒトにおける経口摂取による致死量は、約0.4-1.3 g/kg bw (CEPA (2000)) や1.6 g/kg bw (SIDS (2009)、NITE 初期リスク評価書 (2007)、ACGIH (7th, 2001)) |
| 特定標的臓器毒性(反復ばく露) | : ヒトでは、男性ボランティアに69 mg/m ³ までの濃度を毎日20-22時間、1ヶ月間吸入ばく露したが、全身影響はみられなかった (環境省リスク評価第3巻 (2004)、SIDS (2009)、ATSDR (2010)) |
| 誤えん有害性 | : データなし |

12.環境影響情報

(混合物の環境影響情報)

| | |
|----------------|------------------|
| 移動性 | : 水域へ移動する可能性がある。 |
| 水生環境有害性 短期(急性) | : データなし |
| 水生環境有害性 長期(慢性) | : データなし |
| オゾン層への有害性 | : データなし |

(エナレク[®]リコール)

| | |
|----------------|--|
| 水生環境有害性 短期(急性) | : 藻類 (Pseudokirchneriella subcapitata) 72時間 ErC50 > 1000 mg/L、甲殻類 (オオミジンコ) 48時間 EC50 > 1120 mg/L、魚類 (メダカ) 96時間 LC50 > 100 mg/L (いずれも環境省生態影響試験, 2001、環境省リスク評価第3巻, 2004、NITE 初期リスク評価書, 2007) |
| 水生環境有害性 長期(慢性) | : 急速分解性であり (14日後のBOD分解度: 90% (既存点検, 1988)、甲殻類 (ニセネコゼミジンコ) の7日間 MATC=4.2 mg/L (環境省リスク評価第3巻, 2004)) |

オゾン層への有害性 : データなし

13.廃棄上の注意

- 残余廃棄物 : 廃棄処理を業者に委託する場合は、都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約を結び、産業廃棄物管理表（マニフェスト）を交付して適切に処理すること。
焼却する場合は、大気汚染防止法、廃掃法、ダイオキシン類対策特別措置法及び都道府県市町村条例等に適合する焼却設備を用いて行う。
- 汚染容器・包装 : 廃棄処理を業者に委託する場合は、都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約を結び、産業廃棄物管理表（マニフェスト）を交付して適切に処理すること。
焼却する場合は、大気汚染防止法、廃掃法、ダイオキシン類対策特別措置法及び都道府県市町村条例等に適合する焼却設備を用いて行う。

14.輸送上の注意

- 陸上輸送 : 消防法・労働安全衛生法等に基づき積載、輸送を行う。
- 海上輸送 : 船舶安全法・港則法等に基づき積載、輸送を行う。
- 航空輸送 : 航空法等に基づき積載、輸送を行う。
- 国連分類・番号 : 該当しない。
- MARPOL 73/78 付属書 II 及び IBC コードによるばら積み輸送される液体物質 : 該当しない。
- 輸送の特定の安全対策及び条件 : 運搬に際しては、容器に漏れのないことを確認し、転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。

15.適用法令

- 適用法令
- 消防法 : 非危険物。
- 毒物及び劇物取締法 : 該当しない。
- 労働安全衛生法 : 通知対象物質：エチレングリコール
表示対象物質：エチレングリコール
- 化学物質管理促進法(PRTR) : 改正政令(令和5年4月1日施行)に該当しない。

16.その他の情報

- 引用文献 : JIS Z 7252:2019「GHSに基づく化学品の分類方法」
JIS Z 7253:2019「GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法—ラベル、作業場内の表示及び安全データシート（SDS）」
化学工業日報社「化審法化学物質」
独立行政法人 製品評価技術基盤機構 化学物質総合検索システム、GHS 分類結果
中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター GHS モデル SDS 情報

記載内容は当社の最善の調査に基づいて作成しておりますが、記載のデータや評価に関しては必ずしも安全性を十分に保証するものではありません。すべての化学製品には未知の有害性が有り得る為、取扱いには細心の注意が必要です。ご使用者各位の責任において、個々の取扱い等の実態に応じて適切な使用条件を設定くださるようお願いいたします。